はるかな尾瀬

ー目　次ー

02　特集①　道迷い遭難、一歩手前

04　特集②　永世の瞬きに寄り添う～歴史ある名山・至仏山に魅せられて～

06　現地情報

・原をわたる風だより

・おこじょだより

08　トピックス　尾瀬保護財団の活動紹介

09　尾瀬ボランティア情報

10　尾瀬保護財団からのお知らせ

2021.12 vol.47

(公財)尾瀬保護財団

錦秋の上田代　撮影日：令和３年10月３日

特集①

道迷い遭難、一歩手前

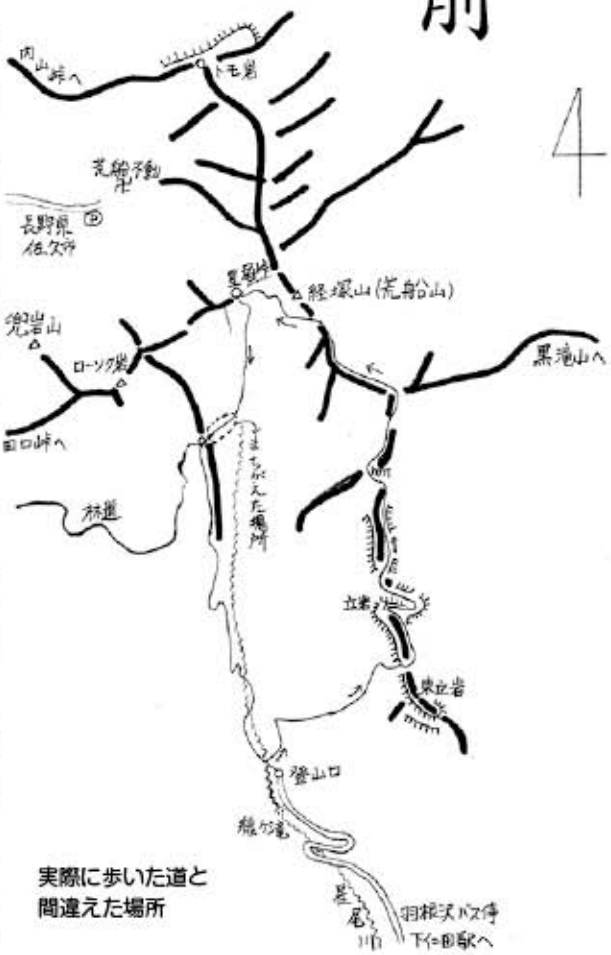
4

私は、学生の頃から山歩きが好きで、振り返ってもう三十年以上続けてきたことになります。学生時代は地学系のサークルだったので、体力は人並みでも、地図読みにはある程度自信がありました。山行ではいつも、二万五千分の一地形図を持って歩き、それと高度計、そして周囲の地形が見られれば、ほぼ自分の位置を把握する事が出来ました。コンパスは持っていても、ザックに入れたままほとんど使っていません。もちろん道を間違えたことはありますが、たいてい自分で誤りに気付き、修正することができたのです。自分は道迷い遭難はしないだろうという自信のようなものがあったのですが、どうやらそれは過信であったと痛感させられる出来事が数年前にありました。この機会に、自分の経験を記すことで、山歩きが好きな方々にとって少しでも参考にしていただければ幸いです。

麓から見上げた立岩

私が行ったのは西上州南牧村の線ヶ滝上の登山口から登り、立岩から稜線を歩き、荒船山の頂上下をトラバースして、星尾峠から沢沿いの道を歩いて、登山口に戻る周回コースでした。ただ、登山者の少ない道を、台風後の荒れている状況で歩くことにしっかりと配慮すべきでした。

十月半ば、秋晴れの気持ちよい日でした。久しぶりの立岩から、麓の集落を見下ろす爽快な眺めを楽しみ、順調なスタートでした。その後の荒船山へと続く稜線も、険しい岩場がありましたが、コースタイムより早く進めました。ここまでの尾根や稜線には、台風の影響はほとんど出ていなかったのですが、後半の沢沿いの登山道には、台風の影響が顕著だったのです。荒船山の頂上下をトラバースする道では、沢を渡る部分で登山道が大きく崩れていて、通れる場所を探して、通過するのに苦労しました。しかもそんな場所がこのトラバース道だけで三カ所ほどあり、星尾峠につくまでに三十分以上ロスしてしまいました。星尾峠から下る道も、沢沿いの道なので、台風の時に水をかぶったり、崩れた場所があったりして、かなりわかりにくく荒れていました。徒渉箇所が分からず地図を見直して行き来したり、登山道でなさそうな所も通れる所を歩いたりしました。気付くとここでも結構時間のロスがあり、だんだん気持ちに焦りが出てきました。それでも、途中で登山道の案内看板を確認できる場面もあり、ホッとしました。



実際に歩いた道と間違えた場所

しかしその後、私は正規の登山道を外れました。既に薄暗くなり始めていたことと、荒れていた道で時間がおしてきて、自分に余裕が無かったことが原因だと思います。登山道から外れて作業道のような道を進んだのですが、すでに台風後の荒れた道をずいぶん歩いてきたので、あまり違和感がありませんでした。二十分も進んでから道はかなり薄くなり、正規の登山道を逸脱していることを、認識しました。それでも、戻る気持ちになりませんでした。正常性バイアスというやつかもしれません。これまで何度も道を間違えても、自力解決できた、という気持ちもありました。また、戻るにしても、どこまで戻るかという分岐の心当たりも無かったのです。もちろん地図は確認しました。「左側に沢の本流が流れている。すると戻らなくても右手にある程度登れる場所を見つければ、登山道に合流できる。また、高度計を見ると登山口まであと百メートルくらい

の標高差だ。そんなに遠い訳ではない。」などと考えながら進みました。作業道のような踏み跡を見つけて進みますが、それが枝沢の崩れた部分にぶつかると、向こう側をよく探しても道らしきものはありません。そこが崩れて登れない場所だと、やむなく下へ降りて本沢沿いに歩ける場所を探しました。

そんなとき、いよいよ暗くなってきてライトを取り出しました。併せて持ってきた装備のチェックをしました。飲み物、非常食がある。防寒具、ツェルト、ライトの予備電池など揃っていることを確認しました。それで、少し水を飲み、食べて気持ちを落ち着けました。これまで何度かライトで山道を歩いたことはありましたが、道に迷っている状態でライトを使うことになったのは初めてでした。自分に言い聞かせたのは「慌てるな、落ち着いて、ゆっくり歩け。ビバークしてもいいんだ。」滑落や転倒でケガさえしなければ、きっと帰れるし、行き詰ったら無理せずビバークしようと思いました。ヘッドライトを頭につけ、手にもひとつ持ちました。これはよかったと思います。手に持ったライトで足下を照らすことで、頭のライトでは陰になってしまうところや滑りやすそうな所を照らすことができました。「秋の日は釣瓶落とし」とはよく言ったもので、沢沿いで樹林帯の中は、五時を過ぎると真っ暗。ライトの明かりが届く範囲以外は全く見えません。沢沿いは小滝状の場所もあり、両側も切り立った岩場になっています。「行けるかも」と思っても、ロープもないし、下の状態も見えていないので、戻って、登って巻けるところを探しました。登れないときはいったん沢まで下りて、また別の登り口を探します。そんなことを三回くらい繰り返しました。時刻は七時前ころ、ついにこれまでの作業道とは違う確かな登山道にぶつかりました。ホッとしましたが、また枝沢で道は崩れているかもしれないので、気を抜かず慎重に道を追いました。やっと朝に見た覚えのある道標が見え、次いで自分の車が見えました。安心して気が抜けると、どっと疲れが噴き出しました。時間にして二時間とちょっと。距離にすれば二キロメートル位のことですが、真っ暗闇では本当に長く感じ、大変な緊張感を強いられた経験でした。

立岩近くから、荒船山へ続く稜線

崩れていた荒船山下トラバース道

数日して気持ちが落ち着くと、もう一度その場に行って、自分がどこで間違えたか確かめたい気持ちと、もうあの山域に立ち入りたくない気持ちと背反した思いがありました。結局、台風被害の処理が一段落したであろう、翌年五月に逆回りで沢路から入りました。枝沢が大きく崩れた跡はそのまま残っていました。それでも人が通れるよう足場が出来、ある程度整備されていました。そのまま正規の道を登り、前回歩いていない道をしばらく歩きました。そして、前回歩いた見覚えのある場所に着きました。ここが間違えたポイントです。そこは特に道標はなく、作業道に入っていく方が直進になるような状態です。ただし、正規ルートの方向にも確かに道はあり、前回もっと明るくて気持ちに余裕がある状態で通過していれば、こちらにも選択肢があったと十分認識できたはずでした。そうすれば、作業道が薄くなった時点で、すぐにここまで戻ったはずです。

半年後も崩れていた枝沢

この経験から、私は自分に慢心があったことを反省しました。登山では早目の出発が基本です。今回は台風後の荒れた道が障害でしたが、他にも、けがをしたり、自分は平気でも同行者にトラブルがあったりするなど、山ではどんな不慮の事態に遭遇するか分かりません。時間に余裕がないと、さらに二次的なトラブルに陥ってしまうと思うのです。

尾瀬では、私が歩いた山域とは比べ物にならない程、登山道はよく整備されています。しかし、秋になると日ごとに日が短くなっていく点は同じです。時間に余裕をもった早立ちをして、尾瀬の山々を永く楽しんでいただきたいと思います。

《参考文献》

（山の鼻ビジターセンター　令和三年度管理員　新井　英樹）

藪岩魂　打田鉄一　著　2013年3月30日　山と渓谷社

特集②

永世の瞬きに寄り添う

～歴史ある名山・至仏山に魅せられて～

Ⅰ．はじめに

いつからだろう。自ら進んで山を歩くようになったのは。

思い返せば、敢えて赴かずとも常に緑に囲まれた幼少期だった。遊び場はもっぱら山の中。田畑の青を駆ける初夏の風が、見渡す限りを黄金色に染める秋の稲穂が、ときに泣きべそを掻いていた帰り道すら包んでくれていた。加えて、祖母は私が物心つく前から庭を植物でいっぱいにしていたこともあり、幼き日々の記憶にはいつも花がある。そんな故郷を「代り映えしない。」「どんくさい。」と、うんざりしていた思春期の私のことは、どうかそういう年頃だったと許してほしい。『三つ子の魂百まで』とはこういうことなのか、兎にも角にも自然が大好きな大人になった。

今回の執筆に当たっては、至仏山という全国的に見ても特殊な名山を介して紐解く、山と人についての見解を記していきたいと思う。

命が輝く季節

Ⅱ．共通点

この山について語るうえで特筆すべきは、約二億五千万年前に形成された含水鉱物・蛇紋岩から成る、ということだ。至仏山の魅力も注意点もこの岩石が隆起した成り立ちの故と言える。基本的に植物の生育に適さないとされる超塩基性の特徴こそ、それでもこの地に根を下ろすことを選んできた貴重な花たちが存在する最たる由縁だ。併せて、脆く滑りやすい蛇紋岩の性質により山行においては危険性を孕んでいる。また、森林限界が低いため晴天に恵まれれば素晴らしい眺望が楽しめる。しかし雨風に見舞われた場合は、遮るものがなくその影響をもろに受けることになる。良し悪しは常に同時に存在する。というのは、人においても同じだろう。うるさい人はにぎやかな人にも成りうるし、癖のある人は個性的との見方もできる。つまりは、受け手とその時の状況によるのだ。

Ⅲ．なぜ山に登るか

「そこに山があるからだ。」イギリスの登山家ジョージ・マロリーの有名なフレーズを皆さんもきっと耳にしたことがあるだろう。折角なのでこの問いをもう少し等身大で考えたい。登山の経験がさほど多くもない自分の場合を一例として。正直なことを言ってしまうと、ほんの数年前までわざわざ苦しい思いをして山に登るなんて、まるで意味が分からなかったのだ。

七月一日。植生保護期間を終えた至仏山は登山解禁日を迎えた。初めに登山が叶ったのは、解禁から四日後。天候はあまり優れなかったが、霧のなかに見るホソバヒナウスユキソウの群生は神秘そのものだった。眺望が望めないことを嘆くよりも、お陰で足元の花によく気付けると思えた方がずっといい。こんな一コマが日々の暮らしのなかでも活きてくる。どんなときもそこから何を見出し糧にしていけるかは、自分次第なのだ。大自然の色彩が溢れ、愛しい生き物たちとの出会いに恵まれた充実感の最中では、多少の息苦しさは寧ろ心地よい。思考と無心が入り混じる時間、心豊かに生きていく為のバイブルにふと出会える。それが堪らなく嬉しくて、私は山に登るのだと思う。

ホソバヒナウスユキソウ
『誇り高い純潔』という花言葉がよく似合う

麓の濃霧が山の上では見事な雲海となった

Ⅳ. 至仏山と人

自然に親しむのは良いことだ。少なくとも人にとっては。では、山にとってはどうか。そこで暮らす動植物にとっては？　海も同じだが、我々が適切でない利用法を繰り返した果てにあるものは環境と生態系の破壊。至仏山も人気の高まりとともにハイカーが急増し、踏みつけによって植生が荒廃してしまった。尾瀬沼や河川の水質改善とアヤメ平などの植生回復が重要視されていたときのことだった。調査と対策の提言が行われたものの荒廃に歯止めは掛からず、平成元年から八年間、東面登山道は閉鎖となった。だが閉鎖以降も泥炭と土砂の流失は進んでしまった。一度裸地化した場所が元のように戻るのは並大抵のことではないのだ。平成十四年五月、尾瀬保護財団及び関係者は至仏山保全緊急対策会議を設置した。自然に親しむのも人なら、壊すのも人。ならば、壊してしまった現実と向き合い根気強く回復を図るのもまた人だ。「人間は考える葦である。」というのは、十七世紀フランスの思想家・パスカルの言葉だが、これは一部抜粋したもの。「人間は自然のなかでもっとも弱い一茎の葦にすぎない。だが、それは考える葦である。」というのが本文だ。広大な宇宙のなかで、人間の存在は無に等しいようなものだ。けれど「考える」という強みがある。ここに人間の尊厳がある、と。尾瀬を守ってきた先人達の姿とも重なるそんな言葉を、思わずにはいられないのだ。

山頂付近の登山道の様子

Ⅴ. 或る決定的な瞬間について

この記事を手に取って頂いているあなたに、ぜひ思い返してほしい。これまでの人生で出会った、心震えるような絶景を。満天の星空、いつかの夕焼け、山脈を照らすモルゲンロート…。あなたの脳裏に映っている風景はどんなものだろうか。覗いてみたい、と素直に思う。ずっとこのまま留めておきたいような美しい景色は、大抵時間とともに束の間に過ぎ去ってしまう事が多いような気がする。儚くて、決定的な瞬間だ。

言わずもがな、至仏山にもそんな〝顔〟がある。ひと際胸が熱くなったのは、早朝高天ヶ原から見下ろした尾瀬ヶ原。湿原にそそぐ陽の光と、立ち込める朝靄が織り成す風景だ。樹林帯を抜けた先で眺望が開ける。夜明け前の湿原。冷たい空気に溶け込む青白い靄が、拠水林を縫うように漂っていた。次第に燧ヶ岳の稜線が輝き日の出を迎えた。宇宙の法則に従い光は進む。ときに山の形に沿って抜け、ときに樹々の合間を游ぐように。見渡す世界が朝の色に染まったあの時間、遠い遺伝子の記憶が蘇るようだった。我々の祖先だけでなく、生きとし生けるものの多くがずっと昔から朝を待ってきたのだろうと証拠は無くとも確信が持てる。優しく、温かい色。カメラを触るようになって二年ほどになるが、特別な瞬間ほど撮影ばかりに気を取られないよう意識するようになった。勿論よりよく残したいけれど、そればかりに気を取られ、後に空しくなっては元も子もない。きちんと感じることを疎かにしない。写真はあくまでも、感動が蘇るきっかけにさえなってくれれば十分だと気付いたからだ。

血潮の遠い記憶をたしかに感じる時間

Ⅵ. おわりに

尾瀬に暮らし、いつも身近に素敵な山がある生活を送れたことに感謝している。忘れがたい瞬間があり、命の息吹があり、人生に通ずる大切な学びがあった。けれどそんな考えを巡らす「一茎の葦」を気にも留めず、今日も静かに聳え立つ至仏山が好きだ。

自分自身を見つめる方法は人それぞれだが、その一つの手段として山を歩くという選択肢もいいものだ、と提案したい。我々が生まれるずっと前から、土に還ったあとも随分長い間この地を見ていくのであろう、圧倒的な存在。その永世な歳月からすれば私たちの命は、まるで瞬きのようなものだ。けれどだからこそ、山とあなたとの間でだけ交わされる、言葉を超えた特別なメッセージがあるはずだ。

（山の鼻ビジターセンター　令和三年度管理員　佐久間　麻由）

《参考文献》
永遠の尾瀬　菊地慶四郎・須藤志成幸　著　上毛新聞社

原をわたる風だより

2021年の尾瀬山の鼻VC

4月、昨年に引き続きコロナ対策を万全に、山の鼻VCの開設に臨みました。今シーズンは当初からバスも通常運行、入山者が少なくとも、多少はコロナ禍前のようなイベントもできるかと予想していましたが、イベントは中止、VC自体の閉設さえ余儀なくされました。

展示や自然解説等で尾瀬をもっと知っていただきたいと思う反面、リスクを考えるとお客様への接触は遠慮がちに。ワクチン接種が進み、マスク着用や消毒等のご協力をいただき、10月に再び開設してからは、お客様と積極的にお話ができたのかなと感じました。来年は少しでも通常の山の鼻VCに戻れるよう、切に願っています。

（西澤　政春）

今シーズンの尾瀬を振り返ると

天候を見ると、春先の5～6月は比較的晴れの日が、7～9月は曇りや雨の日が多く、特に夏は雨の日が続き冷夏ぎみでした。植物は、例年並みで多くが綺麗に咲き、見本園ではシカネットのおかげで、ミツガシワの群落が見られました。樹木については、オオカメノキ・ミズキは綺麗に咲きましたが、ブナ・ミズナラの開花や結実は見られず、花を付けていたシウリザクラの結実もほとんど見られませんでした。動物（ツキノワグマ）は、5～6月の植物の繁茂期、連日の目撃情報があり、追い払いを実施しました。入山者はコロナの影響で、昨年同様極少なく、山の鼻VCの自然観察会等のイベント活動も極少ない実施でした。

（笹原　宗利）

コロナ禍に振り回されたシーズン

5月の上山後、コロナ禍中で息もしづらい世の中でしたが尾瀬の中だと綺麗なミズバショウを見て、思う存分に深呼吸が出来るという喜びがありました。しかし山の鼻VC開館後、すぐに緊急性が高まり閉館、今年も大変な年だなと感じる幕開けでした。

6月の半ばになると、やっと山の鼻VCが開館し7月にイベントも再開となりました。しかし、8月になると全国でコロナ感染者が爆発的に増え、山の鼻VCは再び閉館。10月に再び開館しましたが、最後までイベントは殆ど実施出来ず、新型コロナに振り回されたシーズンとなってしまいました。

来年こそは、いつも通りの尾瀬のシーズンが来る事を祈っております。

（坂上　修司）

2021今シーズンを振り返って

昨年に続き、山の鼻VCで働く事が出来ました。昨年は何もわからず、周りに助けられた半年間、今年は経験者ということで、業務に関しても、生活に関しても難しさを感じた半年間になりました。昨年に比べて、自分は成長できたのか、何が出来たのか、下山が近づくにつれ自問自答する日々です。

でも、日々変化していく尾瀬の自然は、新たな発見と感動を私に与えてくれました。今年は残雪の中の上山で、雪どけから春の芽吹き、新緑、次々と花開く植物たち、秋の草紅葉と紅葉。移り行く季節を肌で感じることが出来ました。

訪れる方々に、尾瀬の魅力を伝える機会をあまり持てなかったことは残念ですが、2シーズンを尾瀬で過ごし、経験したことは私の宝物になっています。

（加藤　揚子）

2021年シーズンを振り返って

初勤務の尾瀬、自分の生涯にかけがえのない「経験・体験・感動」を与えて頂きました。

24時間常駐し、自然の中で過ごす山の鼻VCの環境は、私の心と身体を浄化する効果があることに気が付きました。「山を眺め登り、花を楽しみ覚え、動物と出会い学習し、癒され感動し時を楽しむ」尾瀬で生き・尾瀬で暮らす人たちとの出会い、この素晴らしい尾瀬の自然を後世に引き継ぐ仕事が出来た喜びは、私の生涯に宝物として残ります。来年はコロナ禍で十分な業務提供が出来なかった今年分も合わせて、お客様にご満足いただければと期待いたします。一期一会のメンバーに恵まれ皆さんに大変お世話になりました。

（新保　正利）

初めてのビジターセンター勤務で

今シーズンを振り返ると、コロナ禍2年目となり、開館閉館の繰り返しはあったものの、大きな混乱はなく、職員もお客様もその時の感染状況に応じた対応が出来ていたのではないかと思います。私にとって、初めてのVC勤務は、所長や職員の方々に支えていただき、最後まで働く事が出来て、大きな喜びとかけがえのない経験を得ました。尾瀬で業務にあたり生活できたことで、草木の芽生えから、花が咲き実るまで、継続的に見られましたし、早朝の朝焼け、白い虹、星空撮影など、様々な経験ができました。こうした尾瀬の豊かな自然を、永く繋いでいけるよう、今後も自分にできる形で保護活動に関わっていきたいと思います。

（新井　英樹）

飽き性の私の心を掴み続けた場所

念願叶って掴んだこの仕事は、やはり大きな財産になりました。私は尾瀬に一度も来たことがないままここで働き始め、同期のなかでも間違いなくスタートラインから大幅に遅れていました。けれど、だからこそ一番フレッシュな気持ちで過ごせることを強みに変えられると、信じてみたかったのです。残雪の頃、初めて尾瀬ヶ原を歩いた日のことをよく覚えています。あれから半年が経ち、所要時間や或る花が咲く特定の場所など大抵の質問に答えられるようになってもなお、湿原へ歩き出す私はいつも初めての一回と変わらぬ気持ちで、ただただ今日出会える何かにわくわくしていました。学びと感動の日々を過ごせたこと、尾瀬とここで関わったすべての命に感謝です。ありがとう。

（佐久間　麻由）

おこじょだより

さようなら尾瀬

今シーズンの一番は、コロナ禍の中、やはり7月に新・尾瀬沼ビジターセンターがオープンとなったことですね。関係した皆さんに感謝です。

尾瀬の素晴らしい自然の中にあるビジターセンターですが、買い物するにもスーパーまで何時間もかかるとか、生活するうえでは何かと不便なところでもあります。優しい職員が、毎回たくさんの食材を背負って上がってきてくれたことにもとても感謝しています。

まだ残雪が多い5月に尾瀬に入り、気がつけばもう10月、尾瀬のシーズンも終わりです。あっという間の半年。できたこと、できなかったこと、どちらもありますが、来シーズンはできたことをひとつでも多くして、お客様にさらに喜んでもらえる尾瀬沼ビジターセンターにしたいと思います。ありがとうございました。

（阪路　善彦）

新ビジターとともに～感謝～

今年は新しい尾瀬沼ビジターセンターがオープンした記念すべき年になりました。その年に勤務できたことは素直に嬉しいと思います。

新型コロナ感染症の拡大が止まず、今年も尾瀬を訪れた方は少なかったけれど、それでも感染予防を徹底して尾瀬においでくださった皆さんと、新ビジターセンターでの新しい尾瀬の魅力を共有できたことに心から感謝しています。ありがとうございました。

（渡邊　寿敏）

早瀬のごとしと思えども

早師走　望みて尾瀬に参れども　時は早瀬と　吾も思わじ

（ここは早くから師走が来てしまったのか、木道にはうっすら雪が積もる。望んで尾瀬に来たのだけれど、時は早瀬のように流れてしまうとは私も思いもしなかった）

新しい尾瀬沼ビジターセンターの開所を迎えてからも大忙しの毎日。その合間に見える四季折々の景色は何年も繰り返し見ているにも関わらずより一層、色濃く見えました。コロナ禍にも関わらず、「会いに来ました」「また、来年もぜひ」と多くの人からお言葉をいただくたび、「決して楽な仕事ではないけれども、続けていて良かったな。」と思いました。来年はどんな人と出会い、どんな景色が見られるだろうかと今からもう楽しみです。

（川上　藍）

オリオン座が東の空に昇る頃

今、窓の先に秋空をバックに黄葉が始まった燧ヶ岳がそびえています。小さな事を心配する時間があったら、大きな自然の中を歩きなさいよ。と語りかけてくれるように。

街中に住んでいると忘れてしまう季節の変化を一日ごとに感じられる尾瀬は、心の安定剤だとこの半年間何度も感じました。雲、花、紅葉、そして星空。何を見てもその移り変わりが目を楽しませ、心の安らぎをもたらしてくれます。秋の星座が夜の始まりの主役となる頃に私達スタッフは尾瀬を後にしますが、今以上に尾瀬への感謝の気持ちを強く持って下山することだろうと思います。ありがとう尾瀬沼。

（加藤　樹）

一歩ずつ進む

コロナ禍で緊急事態宣言が続いた2021年、2回目のワクチン接種も済み一歩前進。

今年はミニツアー28日（午前、午後の2回）、朝イチ観察会3回、夜のスライド8回、星空観察会1回、ブログ27回、巡回11回等々。特に昨年実施できなかった夜の企画に取り組めたことは何よりです。春「平穏な尾瀬が取り戻せるように…」と『おこじょだより』に書きましたが、その証が夜のスライドや星空観察会を開催できた事だと思います。

6月5日のブログで『サンカヨウが咲きました。』と書いた翌日に『サンカヨウを見に来ました。』と窓口に来られた方がいました。当然サンカヨウにご案内しました。

ひとつのメッセージから新たな行動が生まれ…小さな小さな積み重ね…きっと何かの役に立てたかなと思う今日この頃。。。

（齋藤　孝）

あれ！白虹が出てるよ！

朝5時、食事当番さんが朝食の準備にとりかかり、5時45分その他の人で掃除を始める。（トイレ、お風呂、掃除機、ゴミ出し等）6時15分みんなで手を合わせ「いただきます～。」お箸を進めている最中、窓の外に日が差し始めたその時に「あれ！白虹が出てるよ！」なんとお向かいの長蔵小屋さんの上に青空の中、白いアーチが浮かんでいるではないか。みんな窓辺に集まりカメラを向け始めた。幸福をもたらすという白虹。寝食を共にしたみんなに、ずっとずっと良いことが、たくさんありますように。

（玉田　英司）

尾瀬に住んで

大自然に魅せられ数年前から始まった尾瀬通い。今年もまた、通いながら大好きな尾瀬を堪能しようと考えていました。それが、気が付けば管理員として働くことに。

そして始まった尾瀬での生活ですが、尾瀬の魅力は底知れず、これだけ長い時間を過ごしても日々移ろってゆく風景を前に、飽きる気配がありません。

それどころか、知識が豊富で尾瀬愛溢れる管理員の先輩方に影響を受け、尾瀬のことを知りたいと思う気持ちが大きくなった年でした。

不安定な情勢下ですが、ミニツアーや夜のスライドショー、星空観察会などのイベントも開催でき、お客様と楽しく有意義な時間を過ごせたことに感謝いたします。

（中村　佑子）

トピックス 尾瀬保護財団の活動紹介

至仏山踏み出し防止柵撤去

10月18日（月）、尾瀬保護財団職員２名で至仏山東面登山道の踏み出し防止柵と、山頂の注意看板（「東面登山道は登り専用です」という内容）の撤去を行ってまいりました。

鉄杭撤去の様子

至仏山の降雪量は非常に多く（最も深いところでは10mに達すると言われています！）、防止柵に使用している鉄杭や山頂看板などをそのままにしておくと、雪の重みで簡単に破損してしまうため、毎年シーズン終了直前に撤去を行っています。

作業当日は、前日に降った雪で木道などが滑りやすい状況でしたが、秋晴れの中、紅葉と雪とのコントラストを楽しみながら、気持ち良く作業ができました。

至仏山中腹から撮影した尾瀬ヶ原

至仏山東面登山道は、長い急勾配が続く登山道であり、また、蛇紋岩が非常に滑りやすいため、登山者が比較的歩きやすい植生の上を歩いてしまうことで荒廃を広げてしまった過去があります。特に下りでは、植生へ踏み込む傾向が顕著でした。こうしたことから、至仏山の貴重な植生の保護と登山者の安全性向上のため、至仏山保全対策会議の提言により、平成20年から東面登山道の登り専用化がスタートし、併せて踏み出し防止柵の設置が継続して実施されています。

財団では、尾瀬の貴重な自然を守るため、引き続きこうした取り組みや、マナーの啓発を行ってまいります。皆様の御協力をお願いいたします。

オオハンゴンソウ繁茂状況調査

去る10月５日（火）、尾瀬保護財団職員２名は福島県檜枝岐村の小沢平へオオハンゴンソウの繁茂状況調査に行ってまいりました。群馬県庁から現地まで往復500kmを走破しての日帰り強行軍でした。

７月31日のオオハンゴンソウ駆除作業

周知のとおり、以前から尾瀬では外来植物の入り込みが問題視されています。強い外来植物がはびこることにより在来種が駆逐されてしまうためです。これに対処すべく財団では、関係者の協力を仰ぎながら定期的に繁殖ポイントのチェックと駆除作業を実施してまいりました。こうした粘り強い取組により、繁殖力の大きいオオハンゴンソウやハルザキヤマガラシのような財団で特に注視している外来植物の侵入について、水際で食い止めております。

さて、現地では深いぬかるみに足を取られながらの調査になりました。長靴の縁ギリギリまで両足を飲み込まれ、周囲に手がかりもなくどうやって脱出するのか･･･ひとりで来ていたらと考えると、ちょっと怖くなるような場面にも遭遇しました。

他方、一歩奥に入った渓流の眺めは目にも麗しく、この景観を守っていかねばならないとの決意を新たにした次第です。

７月には関係者の協力を得て駆除作業を実施しましたが、今回の調査でこれが一定の効果を上げていることを確認できたのは収穫でした。次回の駆除作業も徹底的に行い、遠くない将来に、小沢平のオオハンゴンソウを根絶したいものです。

７月31日に駆除したオオハンゴンソウ

入山者が無自覚に持ち込んだ種子によって本来の植生が破壊されてしまいます。尾瀬に入山される際は必ず、入山口にある種子落とし用マットのブラシで靴裏の泥を落としていただくようお願いします。さらに、マットのない箇所からの入山に際しても靴裏に十分お気をつけいただければ、尾瀬本来の姿を次代に継承する助けとなります。みなさまの御協力を重ねてお願いいたします。

財団は、これからも関係者のみなさまと力を合わせ、尾瀬の自然を守る取組を続けてまいります。

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは、尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しました
～シーズン終盤、尾瀬の自然に感謝を込めて～

令和３年の尾瀬シーズンも終盤となった10月、尾瀬でのボランティア活動の締めくくりとして「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施しました。

①10月９日（土）尾瀬ヶ原／尾瀬沼

尾瀬ヶ原では、初めての企業ボランティア参加となる関東いすゞ自動車の方５名と、尾瀬ボランティア４名にご参加いただきました。長いコースでしたが、東電尾瀬橋の紅葉が特に素晴らしく、疲れを忘れる一時となりました。尾瀬沼では、尾瀬ボランティア７名の方にご参加いただき、尾瀬沼一周の行程で清掃活動を行いました。

折しも紅葉の見頃がピークを迎えたタイミングで、秋の景色を楽しみながら実施することができました。

回収したごみ

②10月17日（日）尾瀬ヶ原

冬の始まりを感じさせる一日となりましたが、尾瀬ボランティア５名、群馬トヨペットから６名の方にご参加いただき、清掃活動を行いました。冷たい雨が降り、向こうに見えるはずの燧ヶ岳も雲に包まれて全く見えませんでした。

天候が思わしくなかったため、コースは山ノ鼻から竜宮の往復としましたが、手分けして拾ったごみを集めてみると意外と多く、清掃活動の意義を改めて感じました。

この日は、前日のシカ柵撤去作業から続けてご参加いただいた方もいました。

清掃活動の様子

「研究見本園シカ柵」の格納作業を行いました

研究見本園では、ニホンジカの食害等から植生を守るために植生保護柵が設置されています。今回は初めて尾瀬ボランティア・企業ボランティアにご協力いただき、越冬に向けた植生保護柵の格納（撤去）作業を実施しました。

ポールの取り外し

シカ柵作業参加者

総勢17名のボランティア参加者は３班に分かれ、班ごとに作業指導員の説明を受けながら、ネットを固定するためのアンカーやポールの取り外し、ネットの巻き取りを行いました。

作業のため特別に許可されているとはいえ、普段は立ち入ることのできない湿原。踏み入る際は緊張感を覚えると同時に、足の運びにくさに苦労しました。

各班ともスムーズに作業が進められ、予定時間よりも早くに工程を終えることができました。参加者の皆様も、終了後は疲れの見える表情でしたが、楽しみながら作業に当たっていただけた様子でした。

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、思うように活動できなかった方も多かった令和３年のシーズン。難しい状況の中でもご協力くださいました尾瀬ボランティアや企業の皆さん、本当にありがとうございました。

来シーズンもよろしくお願いいたします。

寄付のお願い ―尾瀬保護財団では、広く寄付をお願いしております―

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。

※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四北越銀行県庁支店	普通	1182791
	第四北越銀行新潟県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

詳細は財団事務局(☎027-220-4431)にお問い合わせください。

株式会社市瀬(いちせ)様からご寄付をいただきました。

株式会社市瀬様から初めてご寄付を賜りましたことを受け、2021年8月、Web会議システム「Zoom」により寄付受納セレモニーを開催いたしました。

今回のご寄付は、市瀬様が製造・販売する商品「尾瀬ノート」(日本語版・英語版)の販売収益の一部となります(一冊あたり20円×販売実績19,272冊)。

市瀬様におかれましては、当財団の寄付規程(内規)に基づき、「協賛寄付者」として、より良いパートナーシップを築かせていただきたく存じます。

改めまして、このたびのあたたかいご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後とも、末永くお付き合いをさせていただければ幸いです。

商品「尾瀬ノート」のご紹介

[参考URL] http://ozenote.ichise.co.jp/

「尾瀬ノート」は、〈尾瀬の木道ペーパー(※1)〉を全頁使用したA5規格のリング式ノート。

巻頭の尾瀬マップでコースや動植物を紹介するほか、尾瀬と地元の3つのまち(群馬県片品村、福島県檜枝岐村、新潟県魚沼市)の紹介頁、巻末には木道整備に関するコラムを掲載。可愛らしいイラスト(デザイン)で、日本語版と英語版の2種類を作成し、2017年11月に販売開始。なお、当該商品は、販売元の市瀬様にて2021年9月18日に完売いたしました。予めご了承ください。

(※1)〈尾瀬の木道ペーパー〉は、木道のリサイクルペーパーです。

尾瀬国立公園内敷設の木道は、総延長およそ65kmに及びます。木道の材料は、折れにくく水に強い国産カラマツ材などです。防腐剤を使わないため、湿原のなかでは、およそ10年経過で架け替えが必要となります。

この、老朽化により公園内から撤去した素材を再利用して製造された紙が〈尾瀬の木道ペーパー〉です。この仕組み(木道リサイクルのシステム)は、東京電力ホールディングス株式会社、中越パルプ工業株式会社、株式会社市瀬の3社により共同開発されました。

株式会社市瀬様のご紹介

●代表者:代表取締役社長　市瀬　泰一郎(敬称略)

●所在地:東京都千代田区神田神保町1-7源興堂ビル6F

●ホームページ(URL):https://www.ichise.co.jp/

市瀬様は、「紙」の流通業として、1908年に創業。今年で113年目を迎える企業です。

社是として〈森と空気と水を大切にする会社〉を掲げ、2003年3月にいちはやく「FSC(※2)」のCoC認証を取得しています。また、東京電力株式会社と『尾瀬の木道エコペーパー』(※1に同じ)の共同開発や、国産材の有効活用につながる『3.9ペーパーシステム』を構築するなど、紙の持続可能性という視点からの商品化に尽力しています。

(※2) Forest Stewardship Council(森林管理協議会)が普及に尽力する、持続可能な森林経営と森林素材の流通を認証する環境保護制度。認証済み製品に付けられるロゴマークは「森を守るマーク」とも言われています。

特別協賛寄付者のご紹介

※10月31日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額　3,396,790円

顧客と時代のニーズを追い求めて…

糸井ホールディングス(株)

糸井ホールディングス株式会社
通算寄付額　7,200,000円

心の産業グループ
エコ計画
環境・食・貢献をテーマに!

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

株式会社エコ計画
通算寄付額　6,000,000円

三条駒草山の会

通算寄付額　1,000,000円

meiji

株式会社明治　通算寄付額　3,100,000円

Asset Management One
アセットマネジメントOne株式会社
通算寄付額　39,479,469円
投資の力で未来をはぐくむ

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が15回目のご寄付となります。

通算寄付額　78,958,937円

群馬銀行

株式会社群馬銀行　通算寄付額　36,812,064円(※)
（※）尾瀬紀行（ぐんぎん証券様分）、横断幕寄付、ぐんぎんSDGｓ私募債、株主優待制度「寄付コース」、その他財団設立当初の一般寄付を含む。

第四北越銀行
DAISHI HOKUETSU BANK

株式会社第四北越銀行　通算寄付額　6,956,427円

第四北越証券
Daishi Hokuetsu Securities

第四北越証券株式会社
通算寄付額　1,891,132円

すべてを地域のために
東邦銀行

株式会社東邦銀行　通算寄付額　14,137,245円(※)
（※）尾瀬紀行（とうほう証券様分）を含む。

協賛寄付者のご紹介

※10月31日現在、五十音順、敬称略

株式会社 市瀬
株式会社市瀬　通算寄付額　385,440円

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく ISUZU
関東いすゞ自動車株式会社
通算寄付額　300,000円

仲間が広がる、旅が深まる クラブツーリズム
クラブツーリズム株式会社
通算寄付額　1,250,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額　1,100,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合
通算寄付額　2,000,000円

群馬トヨペット
群馬トヨペット株式会社　通算寄付額　1,479,290円

GN 群馬日産自動車株式会社
群馬日産自動車株式会社　通算寄付額　900,000円

KDDI株式会社
通算寄付額　456,700円

株式会社ジーシーシー
株式会社ジーシーシー　通算寄付額　300,000円

Smile Park SMARK ISESAKI
スマーク伊勢崎
通算寄付額　800,000円

利根郡信用金庫
利根郡信用金庫　通算寄付額　3,745,390円

このまちの笑顔をふやそう。 とりせん
株式会社とりせん
通算寄付額　2,678,562円

NICHINEN
株式会社ニチネン　通算寄付額　1,500,000円

ひかり接骨院
通算寄付額　631,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和３年６月１日～令和３年10月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

カネコ種苗株式会社、公孫会北魚支部、齋須将、東京研嶺倶楽部、原和也、割田甚一

表紙の風景

尾瀬ヶ原の上田代は原の川上川橋や第一ベンチ、逆燧が映るビュースポットを始め沢山の池塘があります。シーズン中には巡視をしたり、写真を撮りに散歩をしたり、ときには第一ベンチで寝転がったり…何度も何度も歩いた場所です。

この写真は至仏山に登った時に撮影したものです。歩いた事のある場所を高い山から見下ろすと、また違う見方が出来るので、尾瀬ヶ原を歩いた事がある方は、次回は至仏山や燧ケ岳に登ってみてはいかがでしょうか。

この日は黄金色で秋本番となった尾瀬ヶ原や青空の映った池塘たちが、とても綺麗で、しばらく見入ってしまいました。

錦秋の上田代　撮影日：令和3年10月3日

第25回NHK「わたしの尾瀬」写真展

高　崎　展

●開催期間
令和3年12月10日（金）～15日（水）
午前10時～午後5時
※15日（水）は午後4時まで

●会場
高崎シティギャラリー第2展示室
（群馬県高崎市高松町35-1）
（TEL:027-328-5050）

高崎展公開フォーラム

●概要
令和3年12月10日（金）
午後3時30分～午後4時30分
○新井幸人氏、今井隆一氏による
入賞作品解説

●会場
高崎シティギャラリーコアホール

前　橋　展

●開催期間
令和4年1月7日（金）～12日（水）
午前9時～午後4時
※7日（金）は午後1時から、
12日（水）は正午まで

●会場
群馬県庁1階県民ホール
（群馬県前橋市大手町1-1-1）
（TEL:027-223-1111）

※NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト・写真展は第25回をもって終了いたします。
※写真展の運営にご協力いただける尾瀬ボランティアを募集します。詳しくは尾瀬ボランティア専用ホームページにて。

尾瀬公式インスタグラム

本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram
ユーザー名：@discoveroze
URL：https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkswzmb3vmrn

Instagram

友の会 コーナー

「友の会」は、豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

※加入・更新時期は、年4回（5月・8月・11月・2月）です

※2月1日からの加入・更新をご希望の方は12月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口　2,000円
個人	家族会員（個人会員と同居の家族）	1口　1,500円
個人	ユース会員（加入又は更新時に満22歳以下）	1口　1,500円
	賛助会員（団体・企業等）	1口 10,000円
	特別会員（企業等）	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- **友の会会員バッジ進呈**（初回加入時のみ）、**各種資料送付**
- **財団機関誌配布**：郵送にてお配りします
- **宿泊割引**：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
  （休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- **尾瀬周辺施設利用料割引**：入浴料割引
  対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
  https://www.oze-fnd.or.jp

編集後記

今年は尾瀬で久しぶりに10月中の積雪となりました。尾瀬の景色で一番好きなのは草紅葉に霜がおりた朝の湿原風景なのですが、雪景色も捨てがたいです。ナナカマドの赤い実と白い雪とのコントラストは寒ければ寒いほど、何か心に訴えかけるものがあるような気がします。（大澤）

OZE Mobile　緊急情報・お知らせ・ライブ配信 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter　@oze_info
尾瀬情報配信中
尾瀬の情報 を随時発信します

本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。

はるかな尾瀬
公益財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2021.12　2021年12月6日発行
発行所：公益財団法人 尾瀬保護財団
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1　TEL.027-220-4431／FAX.027-220-4421
ホームページアドレス　https://www.oze-fnd.or.jp
ツイッター　https://twitter.com/oze_info　E-mail info@oze-fnd.or.jp